コミュニティだより

徳島市
徳島市コミュニティ
連絡協議会
〒770-8571
徳島市幸町2丁目5番地
TEL(088)621-5510
FAX(088)621-5511

# 2012年を迎えて

徳島市長　原　秀樹

明けましておめでとうございます。

新しい年を穏やかにお迎えのことと謹んでお慶び申し上げます。

皆さまには、日頃から、コミュニティ活動に格別のご理解とご尽力を賜り、厚くお礼を申しあげます。また、昨年は東日本大震災からの復興に向け、各コミュニティ協議会の皆さまから義援金などの心温まるご支援をいただき、重ねて深く感謝申しあげます。

今、私たちを取り巻く環境は、急速に進行する少子高齢化社会への対応や、大規模な自然災害への備えなどが強く求められており、地域の人々の絆を深めるコミュニティ振興の必要性、重要性はますます高まっております。

こうした中、皆さまのまちづくりに対する日々の積極的なご支援は、人と人とのふれあいや信頼を深め、誰もが安心して暮らし続けることのできる地域社会づくりに不可欠のものであり、誠に心強い限りでございます。

本市におきましても、「まちの主役」である市民の皆さまのご活動を支えるため、市政の重要施策に掲げるコミュニティの振興に努めるとともに、ライフライン等の耐震化や津波避難場所の確保など、市民の皆さまの生命と財産を守る防災対策の拡充や、定住自立圏構想の推進、徳島駅前への図書館の移転拡充、LED等の地域資源を活かしたまちの魅力づくりに全力で取り組み、目指す将来像である「心おどる水都・とくしま」の実現に向け、一層の努力を重ねてまいりたいと存じますので、引き続き、皆さまのお力添えを賜りますようお願い申しあげます。

結びに、この一年が皆さまにとりまして実り多い幸せな年となりますよう心からお祈り申しあげまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

# 新年のあいさつ

徳島市コミュニティ連絡協議会
会長　島田　和男

新年あけましておめでとうございます。

平成二十四年の新春を健やかにお迎えなされた皆々さまに、謹んでお祝い申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、去る三月十一日の誰もが想像もしなかった大地震と大津波、しかもそれにともない原子力発電所事故が発生し、東北三県の沿岸部は、広範囲に渡って壊滅的な被害を受けました。産業面では部品や製品が不足し、日本はおろか全世界に影響を与えました。

また九月には、紀伊半島で台風による記録的な豪雨にみまわれ、村々が濁流に押し流され、たくさんの犠牲者が出ました。

私たちは、自然の力が人知のおよぶ範囲でないことを、まざまざと見せつけられた年であったと思います。

また、ギリシャの債務問題から発生した財政危機が、世界的な金融恐慌のおそれがあるといわれています。すでに日本においても異常な円高となり輸出企業に大きな影響を与えています。

中近東諸国では、政権交代やデモが続き、世界的に混沌として先の見えない状況下にあります。

このような複雑多岐の世の中において、一躍クローズアップされてきたのが、隣近所の助け合い、すなわち「絆」の大切さでありました。

日本人の心の奥にあるものがふつふつと沸き上がって、近隣の者同士で助け合わなければ、日本人として助けねばと、人それぞれに思ったものでした。

私たちが住む徳島においても、東南海地震が近い将来発生するといわれ、日々可能性が高くなっています。

このような状況下の中、徳島市コミュニティ連絡協議会は、お互いに助け合い、情報交換を密にし「絆」を強め、明るい未来を開くようみんなで頑張りましょう。

# 年男年女 所感と抱負

## 加茂名まちづくり協議会
### 会長　原田　治郎

新年明けましておめでとうございます。辰年をお健やかにお迎えになりました皆さまには、謹んでお慶び申し上げます。バレーボールで鍛えた剛健な体も、辰年を六回目を迎えるとなると体の至る所の部品が悲鳴をあげるようになりました。

さて、昨年、国内では東日本大震災の発生で多くの方々が犠牲になり、悲惨な状況が今なお続いております。近い将来必ず発生するといわれている東南海・南海地震に備えて自主防災組織の見直し、各町内会組織での防災訓練など「加茂名はひとつ」を合い言葉に、人と人との結びつきが震災を最小限に抑えるキーワードになると信じています。

ご多分にもれず、昨今の加茂名地区のコミュニティ活動も高齢者が主役であり、選手交代がままならない状況の中、元気ある高齢者のパワーを結集し、この厳しい現状を乗り越えなくてはいけません。少しでもコミュニティ活動に尽力できるよう、満身創痍で頑張る所存であります。

## 多家良地区連合協議会
### 会長　西占　敏行

平成二十四年辰年、新年明けましておめでとうございます。この世に生をうけ、六回目の辰年。七十二歳になり、五十、六十、そして七十歳と、ますます老いを感じる年になりました。

昨年肩の筋を切り、年始めに手術、入院五十日、また血圧が高くなり服薬を始めると胃の調子が悪くなりカメラ検査。肩の手術経過はよく、胃も異常なく幸いでしたが、以前より格段に気をつける毎日を過ごしております。

気持ちだけ元気で七十五歳まで、いや八十歳までは現役続行と農作業に精を出しておりますが、最近若い人から体力を過信しすぎる、無理しすぎていると注意されることがたびたびあります。

今年はできる限り無理をせず、現役を続けながらぼけ防止にと始めた囲碁の上達を目指して頑張ります。また地元飯谷町はもとより、多家良地区のお世話もしたいと思っております。多家良地区は徳島市の最南端で面積も広く過疎が進み、一人暮らし、夫婦二人の老人世帯が多くなってきました。そこで、子どもを含めた若者との交流や、比較的元気な老人が手助けがいる老人のお世話をします。行政や老人ホームの世話にならないグループホーム的な生活をする場所が必要になると考えている最近ですが、市内で生活している多数の人に、平穏で治安も比較的よく、のんびりとした田舎の暮らしを宣伝し、体験してもらうのも自分の仕事だと考えている昨今です。

## 国府コミュニティ協議会
### 会長　幸田　勝

私は四国八十八カ所の十五番札所、国分寺の境内で生まれ育ちました。

家が宿屋をしておりました

**本年もよろしくお願いします**

沖洲コミュニティ協議会　会長　三栖谷高照
津田コミュニティ協議会　会長　島田　和男
加茂名まちづくり協議会　会長　原田　治郎
加茂コミュニティ協議会　会長　大栗　敏治
八万町各種団体連絡協議会　会長　松尾　孜
八万中央コミュニティ推進協議会　会長　露口　玲子
八万コミュニティ推進協議会　会長　福田　紀雄
勝占地区コミュニティ連合会　会長　平井　良明
勝占中部コミュニティ協議会　会長　板東　信夫
勝占東部コミュニティ協議会　会長　髙島　伸一
多家良地区連合協議会　会長　西占　敏行
多家良中央コミュニティ協議会　会長　平岡　幸治
丈六コミュニティ協議会　会長　山橋　正和
不動コミュニティ協議会　会長　渡邉　浩一
入田町まちづくり協議会　会長　坂東　喜夫
上八万コミュニティ連合協議会　会長　松浦　玉男
上八万まちづくり協議会　会長　大下　栄二
一宮下町町づくり協議会　会長　祖川　信明
川内まちづくり協議会　会長　中財　達夫
川内南コミュニティ協議会　会長　井上兵八郎
応神町コミュニティ協議会　会長　玉置　勇次
国府コミュニティ協議会　会長　幸田　勝
新町コミュニティ協議会　会長　安田　正勝
西富田コミュニティ協議会　会長　小出　雅彦
東富田コミュニティ協議会　会長　松ノ内　清
昭和コミュニティ協議会　会長　松岡　勤
渭東コミュニティ協議会　会長　湯浅　義博
住吉・城東地区町づくり協議会　会長　芝　正裕
渭北街づくり協議会　会長　岩丸　定
佐古コミュニティ協議会　会長　小椋ツネ子
南井上コミュニティ協議会　会長　堀　良治
北井上地区コミュニティ協議会　会長　山田　重政
内町まちづくり協議会　会長　豊田　雅信

（順不同）

ので、風呂をわかし、食事の手伝いをしながら、お遍路さんから巡礼としてのいろいろなお話をお聞きして成長しました。

お遍路さんのお世話をしたり、お接待をしていると、いつかは自分も四国八十八カ所巡りに出てみたいと思うようになりました。

しかし、仕事等いろいろな事情があり、実現できないまま年月が経っていきました。

七十歳になったのを機会に一大決心をして、巡礼として札所巡りに出かけました。

白装束に身を包み、菅笠をかぶると身がひきしまる思いです。

歩いたり、時には車を使ったりして、一年間で阿波一国と讃岐の半分あまりを巡ることができました。

今年は六回目の年男です。まだ参拝せずに残っている讃岐半分、土佐、伊予を全寺巡礼として巡り、一歩でもお大師様のお心に近づきたいものだと思っております。

**新町コミュニティ協議会**
**会長　安田　正勝**

東日本大震災による大津波で多くの尊い命が失われ、また、原発事故による放射能で避難生活を強いられている現状、海外ではタイの大洪水、トルコ大地震と、異常とも思える災害に大きな衝撃を受けました。

私ども新町コミュニティ協議会としては、今一番何が求められているか自問自答し、ご存じの通り新町地区は高齢者比率が最も高い地区で、大きな地震がおきると大きな被害が出ることが懸念されます。自主防災組織はありますが、現実若い人が少なく、現状での対応は厳しい状況です。

幸いにもこの地区は元気な高齢者が大勢おり、その人たちにコミュニティ協議会活動を支えてもらっています。また、元気な高齢者による自主防災連絡会を作ることを進めたいと思います。

新町コミュニティ協議会は、日頃から人と人との交流を大切にし、対話と協調を柱に考えて歩んでまいりました。幸い、新町地区は幼稚園、小学校、公民館も同じ立地にあります。幼稚園児の送迎など父兄との会話もあり、各施設の行事などに協力いただき、児童と地域の方々との交流も十分できている思いはありますが、何はともあれ常日頃積み重ねてきた人と人の絆が、万一の災害時に大きなパワーになると信じ、日々努力を重ねて行きたいと思います。

**内町まちづくり協議会**
**会長　豊田　雅信**

昨年は、日本中が災難に見舞われた年でした。三月十一日の東日本大震災は、千年に一度ともいわれる大地震と津波で、すべての物が流されてしまいました。原発から漏れた放射線の恐怖はこれからも続きます。今後の私たちの人生を考える上で、生きた教訓としなければなりません。秋には台風で川は氾濫し、山津波が発生しました。大自然の脅威には、人間はなすすべもなくただ逃げるだけです。

私たちは、いざというときに備えて知識を蓄え、準備をしなくてはなりません。避難場所として指定されているコミュニティセンターですが、すべてにおいて十分とはいえず、さらに充実させる必要があります。地道でも、一歩一歩進めていきたいと思います。

本年が災害の無い年であって、地域のコミュニティがますます発展できることを祈ります。

## 平成23年度も自治宝くじ助成金により、阿波踊り用品を購入しました。

あなたに夢を。街に元気を。
宝くじ
クーちゃん

# 加茂地区
# 子どもを守る会のあゆみ

加茂コミュニティ協議会
小西　康文

平成二十三年九月十三日、好天に恵まれたその日は、初秋の日差しと適度の風もあり、私たちにはまさに大安吉日であった。

加茂地区子どもを守る会は、多様化する社会情勢に、地域子どもたちの安心安全に少しでも役立ちたいと、平成十六年当時のコミュニティ協議会宮崎会長を中心に議論を重ねた。その結果、黄色のネーム入りジャンパーを作成し、平成十七年一月七日に加茂コミュニティセンターにて発足式を行い、各種団体にジャンパー等配布し、地域内で下校時の立哨や見回りを会員に依頼した。そして、翌十八年には青色防犯パトロール車巡回の件が話題となり、予算、乗務、運営等協議し、コミュニティ協議会、社会福祉協議会、ＰＴＡ、防犯協会が核となり民児協はじめ各団体が協力とのことで実施が決定し、早速軽自動車を購入した。また、青パト乗務員は徳島西署にて講習受講。十一月二十日にパトロール隊結成式を挙行した。以降約五年間、子どもたちの下校時におけるパトロール車の出動率は、ほぼ百パーセントに近い好成績で会員の皆さまに感謝している。

さて、子どもを守る会では将来を展望し、青パト防犯車の申請を岡田防犯会長に依頼していたが、連絡があり、私どもに配備されることになった。守る会では急きょ役員会を開き、大栗顧問（コミュニティ協議会会長）にアドバイスをいただきながら、日程、場所等を討議し、徳島西署、千松小学校の協力のもと、九月十三日午後二時より千松小学校にて贈呈式は体育館、神事含む出発式はグラウンドでの開催となった。当日は授業日で、全行程一時間の強行だったので、来賓祝辞等は遠慮いただき、出発式は宣誓と児童代表のお礼のみとなった。参加者は守る会とＰＴＡが約百名、六年生児童が百五十余名で合わせて二百六十名の大人数となった。お祓いを済ませた新しい青パト防犯車は、加茂地区子どもを守る会の名前をつけ、五名のリーダー会員とともに多数の見送りを受けながら地区内巡回に出発。

慌ただしい中だったが天候にも恵まれ、子どもを守る会にふさわしい新たなる良き出発点となった。

この記念すべき式典をはじめ、子どもを守る会活動にご支援、ご協力いただいた関係者各位に深謝申し上げるとともに、私たちもこの感激を胸にその責務を自覚し、努力する覚悟である。

# 勝占中部コミュニティ協議会
# 藍染め講座

勝占中部コミュニティ協議会では、いろいろな講座を設けて活動しています。そのうち、珍しいものでは竹人形作り・表装・藍染めの講座があります。

今回はその藍染め講座を紹介します。この藍染めは高田豊輝さんが三十年ほど前に開発した誰でも家庭で染められる簡易な方法です。

まず、畑に藍の種をまいて苗を立て、五月に定植、七月に一番刈り、八月に二番刈りをして、乾燥葉をとり、水で湿らせて二週間発酵させると良質のすくもになります。このすくもを使い染液を作って染める方法です。

平成二年にコミセン活動として十数人の藍染めクラブを設立、畑を借りて藍を栽培し、一番刈りと二番刈りでそれぞれ二百リットルの染液を作って染め、皆さん思い思いの作品ができて大喜びでした。

このグループは毎年藍染めを継続、平成七年にコミセンから分かれて独立し、民家の車庫で実施、現在も健在です。

平成十八年には右のグループの分家ができて、八多町でも藍染めをしています。

藍染め作品

素人でも家庭で藍染めができるというので、随分遠方の山形・新潟・長野・滋賀・和歌山・香川・熊本・鹿児島・台湾からも習いに来ました。中でも福知山市で発足した藍染め同好会は、会員が百五十人ほどになり大盛況です。

コミセンでの作品展は、平成二年から平成五年まで毎年実施、平成五年は四電プラザでも展示、平成六年は大松小学校百二十年記念行事に出品、平成十一年にはシビックセンターで作品展を開きました。

平成二十年コミセン活動で新藍染めグループを結成し、十人ほどが百リットルの藍立てをして楽しんでいます。以来、毎年コミセンの作品展に出品、平成二十二年夏には新町郵便局と佐古郵便局に各一カ月間展示しました。

畑が七坪ほどあれば百リットルの染液が作れます。その液でTシャツであれば三十着ほどを濃く染めることができます。

藍苅りの様子

# 東日本大震災を見て―徳島は・川内は―

川内まちづくり協議会　会長　中財　達夫

昨年三月発生した東日本大震災は、今まで経験したことのない大災害となりました。

このような災害が徳島であればと、心配になる方は多いのではないでしょうか。

川内町は東に海、南に吉野川、周囲は今切川とまさに川に囲まれた町です。古地図を見れば、吉野川の三角州の中に五、六個の島があり、堤を築き、また土砂が堆積すれば堤を築き田畑を造成する干拓を繰り返し、今の川内が形づくられたのです。

昭和二十一年十二月に発生した昭和の南海地震を体験した方々も高齢であり、ほとんどの町民は未体験です。

当時の記録を見ると、津波の被害、人的な被害はなかったようですが、家屋の倒・半壊が二十余軒、地区内では液状化現象で旧堤の陥没、田畑の中に青い砂が噴き出し、井戸水が出なくなったり、墓の拝石が多数転落したと記されています。

それ以上に地盤沈下が大きく、最も大きいところで六十六センチ、少ないところで二十七センチと後日の調査で判明しました。作物は塩害で大きな打撃を受けました。

復旧対策工事と客土工事が行われましたが、工事中台風で堤が壊れ、年月を要したと伝えられています。

このようなぜい弱な地盤の上に、約一万七千人が居住し、国道や高速道路など主要幹線道路が、また工場群、事業所や住宅団地があるのです。

今予測される南海、東南海、東海地震が連動すれば、昭和南海地震以上の被害が出ると思われます。地区内には台地はなく大型の高層ビルも少ないだけに、地区内だけで解決できない現状であります。

今建設が進められている四国横断自動車道は土盛り部分が多く、多人数の避難ができるため、この高速道に避難できるようお願いし、完成すれば大きな役割を果たしてくれると期待が高まっているところです。

# 北井上地区敬老会を初めて共催して

北井上地区コミュニティ協議会　藤本　恵美子

北井上地区コミュニティ協議会は、昨年初めて共催の一団体として敬老会を開催しました。

共催団体は、北井上公民館、北井上地区社会福祉協議会、北井上民生児童委員会、北井上町内会連合会、以上の四団体と協力して、敬老会を楽しんでいただけるように七月から各団体長、事務局が集まり、話し合いを何度か重ねました。

敬老会当日は、前日までの悪天候から一転、朝からすがすがしい天候に恵まれ、七十七歳以上の招待者が八十八名参加していただき、盛大に行われました。

昨年も多数の来賓のご臨席を賜り、式では前川公民館長が共催団体を代表してあいさつし、市長代理の米田様、社協福原会長様、小林市議会議員様よりご祝辞をいただき、公民館主事より来賓紹介がありました。その後、中学校生徒会長米田夢実さんより「敬老の日に贈ることば」があり、最後に招待者を代表して吉岡久男様からお礼のことばをいただきました。また、北井上地区前婦人会長の篠原富久枝様からは、喜寿の方々三十名余りに、手作りテレビ枕と心のこもったお祝いのお手紙を添えて贈呈されました。敬老会実行委員会からは、記念品としてバスタオルを贈呈しました。

その後、昼食にはお弁当が配られ、食事をいただきながら恒例のアトラクションとして、大正琴の演奏、カラオケ、日舞など、また地元有志の

皆さまのご協力を得て、唄や踊りでご招待者の方々に楽しんでいただきました。

昨年も地区敬老会を盛大に開催できましたことを、共催団体の一員として大変嬉しく思います。これからも各種団体一丸となって、地域住民の皆さまと歩んでいきたいと思います。

# 「ひょうたん島オリエンテーリング」実施

内町まちづくり協議会
会長　豊田　雅信

平成二十三年十月七日(金)朝九時、内町小学校の児童百九十八名を対象に開催しました。昨年は雨が多く、当日の天気を心配しましたが、ちょうど良いぐらいの晴天となりました。

開会式の後、一～六年生を二十一班のグループに分け、九時二十分に一組目が五コースに分かれスタート。一分おきに次の組が出て行きました。

各班にはPTAの保護者が二名付き児童の安全を図りました。ポイントには、内町まちづくり協議会のメンバーを二名ずつ配置しました。一人が説明し、もう一人がスタンプを押します。各児童は、オリエンテーリングマップを手に、通過ポイントごとに赤いスタンプを押してもらいました。

ひょうたん島オリエンテーリングのポイントを紹介します。全部で十三個あります。

①蜂須賀家政の銅像
②小便小僧
③海蝕痕・海野十三
④藩政の松・関寛斎
⑤福島橋・人柱伝説
⑥鷲の門
⑦舌石
⑧徳島城博物館
⑨香風台・お花畑踏切
⑩松江邸跡
⑪藍場浜公園
⑫水際公園
⑬えびす神社

一回ではすべてのポイントを巡れませんので、この行事は三年に一回行っています。昨年で五回目となりました。また、今回低学年は、新町川を守る会が運営するひょうたん島クルージングも体験しました。

十一時半には、すべての班が戻ってきて閉会式をしました。記念にポイントのマップと写真を表裏に下敷き状にしたものをプレゼントさせていただきました。

地域の自然や歴史、文化に親しみ、コミュニケーションを図ることができ、また、事故もなく無事に開催できてなによりでした。

福島橋

香風台

名所・旧跡

# 星河内美田遺跡について

上八万文化財保勝会　会長　勝野　昭

昭和七年の春、名東郡上八万村（現在の徳島市上八万町）星河内の美田から銅鐸が出土した。星河内美田遺跡とは、この美田銅鐸の出土地のことである。

「出土地は当時、樋口松蔵所有の山林で、福山宇之丞が年限を定めて赤土採掘権を獲得し、町家や赤土問屋へ赤土を送付していた。その採土の手伝いに従事していた高野ヌイが地下三尺～四尺の処から偶然赤土中に青錆びのある部分を発見したのが最初で、高野の子息利喜雄と共に、すべてで七個の銅鐸を掘り出した。何分発見せられた銅鐸は粘土中に存在し、折角掘り出した品は触れるとぼろぼろ欠けるばかりでなく、付近の人々や、小学校児童の通学の道筋で、いずれも好奇心から見物に来て、だんだんと、それらの銅鐸を破損していったそうで、遺憾この上もないことである。」以上は名東郡史からの抜粋である。

私が徳島市第一地区の文化財巡視員をしていた平成十五年に、新たに、星河内美田遺跡が巡視地に加えられた。現地を調べてみると、以前に上八万ふるさと会が建てた標柱がどこにも見当たらなかった。県教委への五月の巡視報告書には、標柱が見当たらないことを書き、草木の生い茂った写真を添付した。十一月には、標柱を建てる予定であること、発掘者の高野利喜雄氏が死去されたことを報告した。果せるかな、星河内美田遺跡は一年限りで、巡視計画書から外されてしまった。標柱がなかったことが原因であったと思う。さて、念願の標柱は、左側面に「一九三二年（昭和七年）高野ヌイ氏利喜雄氏親子が赤土を採取中この地から小型扁平銅鐸七個が出土した」と刻み、地権者立会の下に工事が行われ、建ち上がったのは、平成十六年七月二十四日であった。なお、美田銅鐸は県立博物館で常設展示されているほか、東北大学考古学研究室、同志社大学考古学研究室に分散して保管されている。

## 編集後記

新しい希望の年になりますよう祈念し、明けましておめでとうございます。

第二十七回国民文化祭開催の年です。かつて徳島の青年はドイツ俘虜からオーケストラを学ぼうと努力しました。徳島エンゲルオーケストラを作りドイツ音楽を習得しました。このような進取の精神が徳島の気風でありたいものです。

市長さんの新年の抱負や会長さんの言葉の中にも、人と人とのふれあう地域社会づくりや絆づくりの重要さを言われています。

コミュニティ活動の活性化がそれを可能にしてくれるでしょう。

加茂地区の青色パトカーづくり、川内地区の津波対策、知恵をしぼった活動です。

北井上の楽しい敬老会づくり、内町の小学生の地域巡り、勝占中部の新開発の藍染講座は地域の特性を活かしました。

星河内美田遺跡の標柱建ては、阿波古代史の貴重な価値を永遠に遺そうとする快挙です。

（佐藤義忠　記）